



発行者 笠岡東ライオンズクラブ
 会長 三谷 渡
 幹事 山部 貴徳



編集 PR委員会・事務局
<http://www.kcv.ne.jp/~khlc/>
 E:mail khlc@kcv.ne.jp

ライオンズクラブ国際協会 336-B 6R-1Z

笠岡東



Lions News

2018-2019年度 第11号



天然記念物「カブトガニ繁殖地」内での保護啓発運動 5月18日 カブトガニ博物館

笠岡東ライオンズクラブ スローガン 『 原点回帰・次世代へ繋ぐ奉仕の輪 』

地区ガバナー スローガン 『 We Serve! へのビジョン 』

国際協会モットー 『“We Serve” われわれは奉仕する 』
 国際会長 グドラン・ビョート・イングバドター (アイスランド)

336-B 地区アクティビティ・スローガン 『“誇り”と“絆”そして“思いやり”』

年次大会本会場



年次大会会場前にて



記念ゴルフ大会



前夜祭



336B 地区年次大会の会場に、島根あさひ訓練センターから盲導犬が来ていました。この機会に盲導犬に関して、日頃から知りたいと想っている事を訓練センターの職員の方に伺いました。先ず、犬種は、レトリバーです。他の犬種、例えば、柴犬は、主人との繋がりは固いが、盲導犬としては不向きだという事です。犬は、15年生きると長生きだと考えられています。盲導犬としての、実働期間を尋ねました。産まれた時から将来は、盲導犬として生きていくことを前提に育てられます。生後3年から10年の期間を盲導犬として生活し、その後は、引退して余生を過ごします。盲導犬と一緒に生活することを選択された方は、その第一歩としての生活スタイルの聞き取り調査から始めます。例えば、外出の多い方とか一日中室内で過ごす傾向にある方とか、一か月間かけて入念に調査します。これに依って希望に沿う盲導犬を選択します。そして最終は、人と犬との相性を照らし合わせて縁結びをしています。一頭の盲導犬を世に送り出すためには、300万円から500万円掛かるそうです。盲導犬の育成に広く社会の資金援助とボランティア参加が求められています。

ライオン豊池 勇

